

『日本農業新聞』にアルヌールと山川町漁業協同組合との
取り組みが掲載されました！
～アルヌール、「カギケノリ」養殖技術の開発を通じ、地球温暖化抑制に貢献～

2023年5月16日発行「日本農業新聞」の1面において、「牛げっぶメタン減らせ 飼料に活性炭、海藻、柿の皮… 環境配慮へ実証活発化」が掲載され、その中で弊社と鹿児島県の漁業協同組合である山川町漁業協同組合の「カギケノリ」に関する取り組みが掲載されましたのでお知らせいたします。

牛のゲップ由来メタンの削減に取り組んでいる団体と取り組みがご紹介されておりますので是非ご覧ください。

【2023年5月16日 日本農業新聞】

<https://www.agrinews.co.jp/news/index/156080>

2023年5月16日掲載 日本農業新聞
より抜粋（日本農業新聞社提供 掲載許諾取得済み）

「牛げっぶメタン減らせ 飼料に活性炭、海藻、柿の皮… 環境配慮へ実証活発化」

牛のげっぶに含まれる温室効果ガス・メタンの量を減らす飼料添加物の研究開発・実証が活発化している。添加物によっては排出量を最大98%減らせるとの例もあり、畜産分野での温室効果ガス削減に期待がかかる。

農水省によると、2021年度に国内の農林水産分野で排出した温室効果ガスは、二酸化炭素（CO₂）換算で4949万トン。家畜のげっぶ由来のメタンはうち16%を占める。

牛のげっぶ中のメタンを減らす研究や実証		
主体	飼料添加物	メタン削減効果と実証内容
白鶴酒造など	活性炭	排出量が22%減るとの研究を活用し実証中
アルヌール 山川町漁協	カギケノリ	排出量が最大98%減るとの研究を活用し実証中
北海道・JA北 オホーツクや 北里大学など	カシュー ナッツ殻液	排出量を20～30%減らす効果があるとの研究を踏まえ実証中
長野県畜産 試験場	柿の皮	胃内部のメタン濃度が乳用牛で6分の1、肉用牛で4分の1以下に低下することを確認
北海道・ JALしべちや 昆布森漁協	昆布	メタンの抑制につながり、肉質が良くなることを確認

日本酒大手の白鶴酒造（神戸市）が研究を進めるのが、酒造りのろ過工程で使った活性炭だ。県内外の公的機関とメタンの削減効果を調べており、24年末にも結果をまとめる。

活性炭は粉末状で、日本酒から余分な色素や香味を取り除くのに使う。同社では使用済みの炭が年間250トン発生するが、肥料としてしか使い道がなかった。牛の飼料に0.6%混ぜると、メタン排出量が2.2%減るとの研究に着目し、実証試験に乗り出した。

使用済みの炭は全国の日本酒メーカーで発生しているという。同社は「子牛に多い下痢を抑え、排せつ物の臭いを減らす効果も既に確認している。日本酒由来の栄養成分も豊富に含む」と説明する。

一方、微細藻類の培養技術の開発を手がけるアルヌール（東京都渋谷区）は5月上旬、海藻カギケノリの研究に乗り出したと発表した。カギケノリはメタン排出量を最大98%減らすとの海外の研究もあるという。5年以内の商品化を目指す。

カギケノリが自生する鹿児島県指宿市の山川町漁協と連携し、養殖技術を研究。JAや生産者と連携し、メタンの削減効果を調べる方針だ。同社は「環境に優しい和牛の商品化などにもつなげていきたい」と意気込む。

他にも、カシューナッツの殻液を使った飼料や、規格外の昆布を使った研究がある。

同省は政策方針「みどりの食料システム戦略」で、メタンの発生を抑える飼料の開発を掲げる。昨年9月にはメタンの削減効果をうたって飼料添加物を販売できるようにした。

同省は「飼料添加物は牛に与えるだけで、温室効果ガスの削減につながる。生産者が取り組みやすいのが利点だ」（畜水産安全管理課）と期待を寄せる。ただ、生産者メリットをどう明確化するかが今後の課題となる。

国は30年度に、牛のげっぷ由来も含むメタンの国内総排出量を13年度比で1.1%減らす目標を掲げる。環境省によると、国内では稲作がメタン総排出量の4割、家畜のげっぷが3割を占める。牛1頭のげっぷからは肉用牛で年6.6キロ、乳用牛で年11.0キロのメタンが排出される。

（北坂公紀）

【ご参考】

2023年5月9日リリース

「アルヌール、山川町漁業協同組合との環境プロジェクトを開始！～「カギケノリ」養殖技術の開発を通じ、地球温暖化抑制に貢献～」

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/3840/tdnet/2271087/00.pdf>

<本件に関するお問い合わせ>

パス株式会社 担当 小佐々 由美

TEL: 03-6823-6664 / E-Mail : ir@pathway.co.jp